

南禅寺界限別荘の隠れた名勝「對龍山荘」へ

秋の京都～非公開の「對龍山荘」と、もう一度「無鄰菴」～

對龍山荘は南禅寺の塔頭跡地に明治29～32年(1896～1899)にかけて伊集院兼常の別荘として造営されました。その後、市田弥一郎が譲り受け、明治34～38年(1901～1905)に改修が行われ、現在の景観の基礎が出来上がりました。庭園は、伊集院兼常が作庭したものを基に七代目小川治兵衛(植治)が作り直しており、広大な敷地に、池や流れ、滝石組、芝生広場、茶室や水車小屋が設けられています。建築は、当代随一といわれた大工の島田藤吉(島藤)の建てたものです。對龍山荘の名は市田氏の所有となった明治34年、南禅寺の山号である瑞龍山に対して位置していることからの命名です。(對は対の旧字です)その後、呉服会社、不動産投資会社の所有を経て、2010年より、ニトリホールディングスが所有しています。

見学は学術目的に限られているため、今回は貴重な機会です。

無鄰菴は、明治・大正時代の山縣有朋の別荘として、明治27～29年(1894～1896)年の間に造営されました。庭園は、有朋公自らの設計・監督により、造園家・七代目小川治兵衛が作庭したもので、東山を借景に琵琶湖疏水の水を取り入れ、三段の滝、池、芝生を配した近代日本庭園で、明治時代の名園の一つです。それまでの、池を海に、岩を島に見立てる象徴主義的な庭園から、里山の風景や小川そのものの躍動的な流れをもつ自然主義的な新しい庭園観により造営されました。建物は、簡素な木造二階建ての母屋、藪ノ内流燕菴(えんなん)を模したといわれる茶室、日露戦争直前の我が国の外交方針を決める「無鄰菴会議」の会場になった洋館の3つから成ります。

無鄰菴は、南禅寺界限別荘群の中で唯一通年公開されてますのでご存知の方もいると思いますが、小川治兵衛の庭園を有する別荘建築を比較検証する良い機会です。

對龍山荘は、学術調査として特別に許可を得ており、学会での研究費補助をしておりますので、奮ってご参加ください。(見学後の調査報告書は義務ではありませんのでご安心ください。)

昼食は、再生された京都会館のカフェです。ここではリニューアルされた前川國男設計のモダンデザインの空間を体験ください。

日 程：2019年11月23日(土・祝)

内 容：11時50分 「對龍山荘」入り口前集合
蹴上より徒歩7分
12時～13時30分 「對龍山荘」見学
13時50分～14時45分 昼食「京都モダンテラス」
15時00分～16時30分 「無鄰菴」見学

費 用：支部学会員；2000円 学会員以外；3000円(見学費)
※学術調査目的のため、学会で補助をしています

定 員：15名

集 合：對龍山荘入り口前

申 込：下記、日本インテリア学会関西支部ホームページの、見学会申し込みページに必要事項をご記入ください。

<http://www.jasis-kansai.jp/>

締 切：2019年11月10日

注意事項：当日は白い靴下を履いてください。

時間厳守。先に中に入らず門前集合です。



對龍山荘



無鄰菴

